



倶知安町



「町づくりは私達の手から」をキーワードに、地域や産業の活性化へ

「わが村は美しくー北海道」運動第10回コンクール応募団体

北海道倶知安農業高等学校(ようてい和牛プロジェクト)

【倶知安町】

資源循環型サイクルを活用した「ようてい和牛」の生産

はじめは？

倶知安町は、農業と観光業が盛んな町です。外国人観光客も多く、地域のレストランから後志を代表するような畜産物があればと伺い、また畜産を学ぶ中で輸入飼料価格の高騰が畜産経営を圧迫している事を知り、倶知安町は生食用男爵イモの約15%が規格外品として安価で取引されていることから「規格外品男爵イモを飼料化して和牛に給与し、排出されたふん尿を堆肥化し畑へ還元する」という資源循環型サイクルを考案し、生産された和牛は「ようてい和牛」という新たなブランドとして売り出し地域の活性化に繋げるプロジェクトを始めました。

おもな活動

平成26年から規格外ジャガイモの飼料化を始め、地元で生産されている原材料として、規格外ジャガイモ・飼料米・フスマ・規格外大豆を使用しました。規格外ジャガイモは細断し、その他の原材料を混合し、ドラム缶に詰めて嫌気性発酵させた「ポテトサイレージ」という飼料を開発しました。現在は、青木農産に協力してもらい、デンプン粕サイレージの開発に挑戦しています。平成27年から飼料効果を検証するため、黒毛和種肥育牛を対象とした給与試験を実施し一般的な配合飼料の約10%をポテトサイレージで代替したところ、2頭連続でA5ランクを獲得しました。消費者に届けるところまでを学ぶため、自分達で精肉へ加工し、本校アンテナショップで販売しました。



ポテトサイレージの製造

ここが自慢

【ようてい和牛普及活動で地域や産業の活性化】

ポテトサイレージに代替したことで、飼料費を1頭当たり13,000円削減することができ、さらに農業所得は道内の平均枝肉取引価格と比較しても120,000円の増収となり、経営改善に繋がることが実証されました。さらに飼料製造体制や加工施設が整えば、地元への雇用創出も見込まれると考えます。JAようていや和牛農家の協力もあり、“ようてい和牛改良組合”が設立され、本校では飼育技術を学ぶため組合員から肥育素牛を預託し肥育し、技術普及の体制が整い始めています。



ようてい和牛精肉・販売

また、町内でようてい和牛精肉販売会を実施、「ほっかいどう農業高校大会」ではネット販売に挑戦、2019年のG20観光大臣会合ではお弁当に使用される等、町内外へ普及することができました。

連絡先

代表者名：近江 勉さん／設立：1941年／会員：62名

住所：虻田郡倶知安町字旭15番地

電話番号：0136-22-1148

F A X：0136-22-2252

E-mail：

U R L：<http://www.kucchannougyou.hokkaido-c.ed.jp/>